

竹原管内景況調査

12月の景況DIは、製造業・非製造業ともに悪化

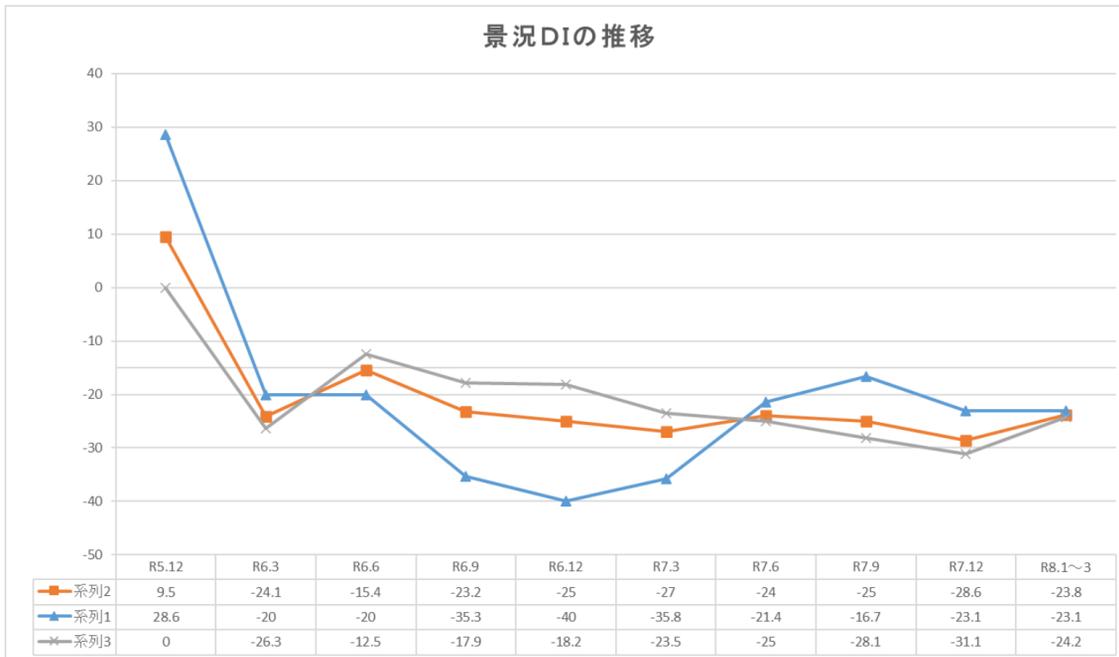
当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今回は、令和7年12月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

調査概要
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
令和7年12月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	17	13
建設	8	7
小売	18	11
サービス	17	11
合計	60	42

●全産業におけるDI値



12月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は6.4ポイント悪化、非製造業は3.0ポイント悪化しました。
12月と比べて1月～3月までの見通しは、全体では、4.8ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

- ・売上は堅調に推移しているものの、原材料である米の大幅な価格高騰に対し、価格転嫁が追いついておらず、今後の見通しはいまだ不透明な状況。加えて、根拠もなく飲食業・酒類業を一律に「悪」とみなしたかのようなコロナ対策政策の影響により借入金が膨張し、その負担が残る中、今回の利上げによって利息支払いの増加も見込まれており、経営環境は一段と厳しさを増している。(日本酒)
- ・主力商品の価格変更による単価アップ効果で、売上増加。(食品)
- ・市場の消費が減少している為。(日本酒)
- ・災害復旧工事が終わり、市内業者が役所工事に集中して、仕事が受注できない。(建設)
- ・発注単価が上昇しているため、工事量が少なくても採算が合う。受注数が伴えば、更に景況は好転する。(建設)
- ・なんとか例年の通りの受注を確保できている。(建設)
- ・お客様の高齢化による来客数の減少。(化粧品)
- ・原材料費の高騰及び、高止まりと売上額の減少、人件費の上昇。その上昇分を価格転嫁できない。(菓子)
- ・12月の実績は、ビジネス客を中心にインバウンド需要も堅調で、10月～客室単価の値上げもあり売上自体は増加したが、料飲部門(レストラン・宴会)は前年同月と比較して受注件数は横這いとなった。また、原材料費・光熱費・外注費などの高騰が続いており、売上増加分がそのまま利益に繋がりにくい状況下です。そのため、利益面では前年と大きな差が出ず、実質的には横這いに留まる結果となった。(ホテル)
- ・リース料、物品の価格上昇。(産業廃棄物処理)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)